



4. 質の高い教育をみんなに

「みなさんmiraiプロジェクト」講演会開催・慶應グッズ作成

「みなさんmiraiプロジェクト」は、「自然の中で考える生命、社会の未来—我々は何ができるのか」をテーマとして、キャンパスではできない学びを研究領域・キャンパス横断で行うプロジェクトです。

2024年5月13日、鈴木卓也氏（南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会会長兼南三陸ネイチャーセンター友の会理事）と一ノ瀬友博環境情報学部教授を招き、プロジェクトの舞台である慶應義塾の学校林志津川山林に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。ドローンを使った撮影による森林の分析結果、そして、海と森が循環する「いのちめぐるまち」を目指す南三陸町で行われている、森を活かす取り組みについて話を伺いました。南三陸の森が、どのような森でどのようなポテンシャルを秘めているのか、理解を深める機会となりました。2024年12月9日には、齋藤暖生氏（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所長）を招き、「みんなの森の復権へ」と題した基調講演を三田キャンパスにて行いました。人々の森離れによって、生物多様性の喪失、災害リスクの増大、資源の過剰利用、モニタリングの減退といった、多くの弊害が誰にでも返ってくる危険性が示され、あるべき森との付き合い方についての提言をいただきました。

また、慶應義塾が関わる南三陸のFSC認証林の間伐材を使用したチャームを慶應グッズの試作品として作成しました。間伐材は森の循環を象徴するもので、「FSC認証マーク」をチャームの裏側につけることで、国際的な持続可能な取り組みの周知を図っています。

第36回サイエンス・カフェ「日吉の森探検」開催

自然科学研究教育センターは、科学者と一般市民が積極的なコミュニケーションを行い、自然科学に対する相互理解を得ることを目的として、年に1～2回、サイエンス・カフェを開催しています。

2024年7月20日、第36回サイエンス・カフェとして、「日吉の森探検」を開催しました。日吉キャンパスには「日吉の森」と呼ばれる豊かな自然があり、1200種を超える多様な生き物が生息しています。キャンパス内にはコナラやクヌギなどからなる雑木林が広がり、タヌキなどの動物が暮らし、カブトムシなどの昆虫も見られます。また、森には様々な植物やきのこも生育しています。参加者は、日吉キャンパスの地形や歴史、日吉の森の成り立ちや特徴についての解説を聞きながら、日吉の森を散策しました。植物、鳥、昆虫、きのこなど、いろいろな生き物の観察を通して、身近な場所にも豊かな自然環境が残されていること、そして、生き物の不思議な世界が広がっていることを体感しました。



「日吉の森探検」の様子

自然観察会開催

志木高等学校では、地域住民にキャンパスを知っていただく取り組みとして、生徒が担うインストラクターの解説を聞きながらキャンパス内を散策し、生育・棲息する動植物を観察する「自然観察会」を実施しています。インストラクターの生徒は、事前講習会に3回以上出席し、研修修了の認定を受けています。2024年5月25日の第30回には124名、9月21日の第31回には131名が参加し、インストラクターによる動植物の説明を聞きながら、スタンプラリーなどを楽しみました。



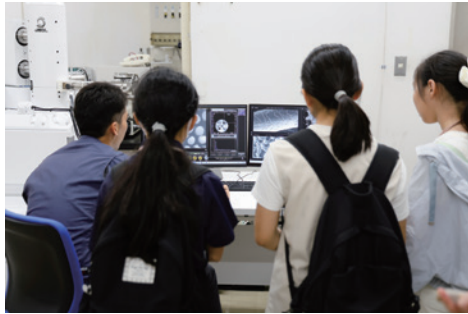
インストラクターの説明を聞く参加者

全国10万人以上の中高生女子の進路選択を応援!Girls Meet STEM Collegeに参画

理工学部は、公益財団法人山田進太郎D&I財団による、中高生女子向けにSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)領域の学生生活が体験できるプログラム「Girls Meet STEM College」に2024年6月より参加しています。

2024年8月30日、「Girls Meet STEM College」の協力を得て、中高生女子を対象にしたイベント“Girls Science Club 2024”を実施しました。実験や最近の研究の紹介のほか、メディアセンター、中央試験所の実験施設および量子コンピューティングセンターを中心に巡るキャンパスツアーと、在学生と教員に大学生活や受験勉強、学門*の選び方、留学などを自由に相談できる座談会を行いました。

※「学門」とは、“学びの庭への入口”という意味を含めた言葉です。理工学部では、入試の時点で5つの「学門」(学門A:物理・電気・機械分野、学門B:電気・情報分野、学門C:情報・数学・データサイエンス分野、学門D:機械・システム分野、学門E:化学・生命分野)のいずれかを選択します。



中央試験所の見学



座談会の様子

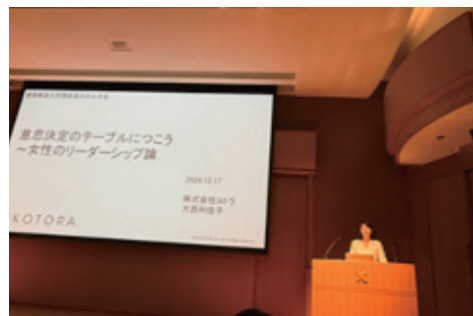
「女性の活躍を聞くシリーズ」講演会開催

経済学部では、専門課程における女性教員比率向上および女子学生比率向上を目的として、2021年秋に経済学部女性教員比率タスクフォースを組成し、講演会の企画などを通じて、協生環境改善の角度から教員の意識向上を図っています。2024年度は、「女性の活躍を聞くシリーズ」と題した講演会を開催しました。

2024年6月17日の第1回講演会「Finland and Equality」では、駐日フィンランド大使館書記官であるニーナ・ヴァイサネン氏を迎え、データを基に、ジェンダー平等先進国であるフィンランドの経験やフィンランド流の価値観、生き方について説明がなされました。また、多様性を重んじた組織、社会を実現していくためのロールモデルの重要性や、ジェンダー平等度が高く、幸福度ランキング、SDGsの達成度などでも常に上位のフィンランドでさえも出生率が1.3と伸び悩んでいる事実など、現在進行形の課題についても話が及びました。2024年12月17日の第2回講演会「意思決定のテーブルにつこう。女性のリーダーシップ論」では、株式会社コトラ代表取締役の大西利佳子氏にご講演いただきました。大西氏は、これまでのキャリアや起業家としての経験を基に、「意思決定」「リーダーシップ」「社会貢献」などについて語られました。本講演会は、学生や社会人にとって、キャリア形成やリーダーシップを発揮するための具体的なヒントを得る貴重な機会となりました。



第1回講演会



第2回講演会

女性のからだ支援～Breezeプロジェクト～生理用品の無償配付

慶應義塾では、女性のからだ支援「Breezeプロジェクト」の一環として、経済状況による生活不安を抱える女子学生を対象に、生理用品の無償配付を実施しています。2024年度は、4月、7月、10月、1月の4回募集を行いました。また、生理用ナプキン無料提供ディスペンサーOiTr (<https://www.diversity.keio.ac.jp/breeze/breeze.html>)をすべてのキャンパスに導入しています。女子学生の生理に伴う心やからだの負担軽減とジェンダーギャップの是正に寄与し、快適な大学生活を送るための一助となることを目指しています。並行して専門医によるからだセミナーの開催や保健管理センターに「女性のからだ・男性のからだ相談室」を開設しています。

AHEAD JAPAN主催の障害学生支援セミナーや全国大会を開催

2024年6月29日、三田キャンパスにて、一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会(AHEAD JAPAN)と協生環境推進室共催による障害学生支援セミナー「私立大学における体制整備—改正障害者差別解消法の施行をふまえて」を開催しました。2024年4月に施行した改正障害者差別解消法により、これまで私立大学等では努力義務であった合理的配慮の提供が法的義務になりました。さらに、文部科学省の「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第三次まとめ)」が公表され、これらの社会的動向を受けて、私立大学においても障害学生支援の体制整備を一層進めていく必要性が生じています。セミナーでは、文部科学省からの「第三次まとめ」の内容説明のほか、障害学生支援に携わっている大学教職員等によるパネルディスカッションなどが行われました。

続いて2024年8月29日～8月30日には、三田キャンパスにて「AHEAD JAPAN CONFERENCE 2024(第10回全国大会)」が開催され、全国から多くの参加者が集まり、障害学生支援に関する実践・研究の発表やネットワークづくりが活発に行われました。また、開催前日には、障害学生支援に関わる慶應義塾教職員のための特別企画として、障害学生支援の専門家や文部科学省職員による、障害のある学生への対応などに関する勉強会が開催されました。

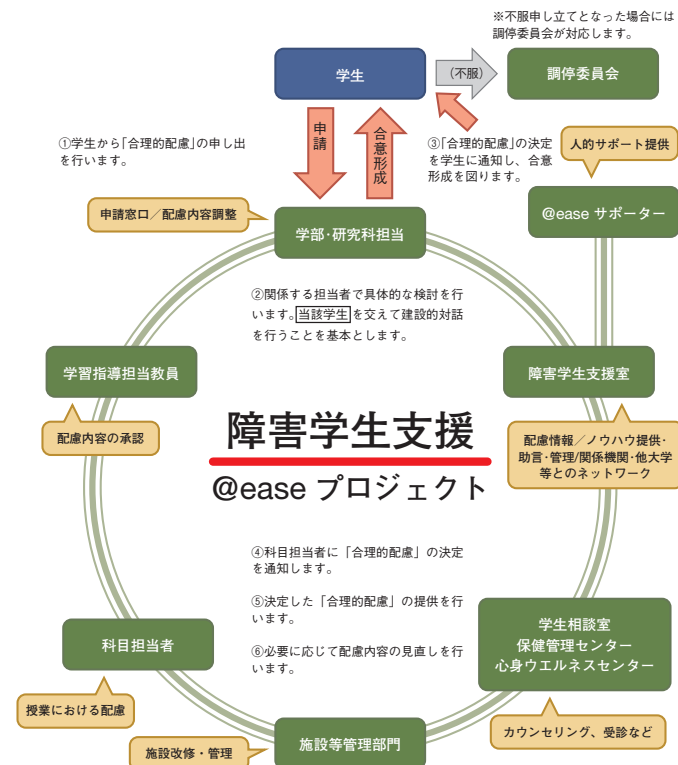


AHEAD JAPAN CONFERENCE 2024 慶應義塾のポスター発表の様子

障害のある学生支援体制の整備

慶應義塾では、障害のある学生を支援するために、関係する部門が連携して取り組む「@easeプロジェクト」と名付けた枠組みを用意し、関係部門が連携し、対応を行うための体制整備を進めています。その一環として、2024年度より、在学生向けポータルサイト「K-Support」による「合理的配慮」のオンライン申請を導入しました。これにより、学生は時間や場所に制約されることなく、申請手続きを行うことができました。

「合理的配慮」申し出の流れ



小泉信三記念講座*「私たちが目指す近未来の医療・介護・ヘルスケアとは」開催

2024年9月13日、中村雅也医学部教授による2024年度小泉信三記念講座「私たちが目指す近未来の医療・介護・ヘルスケアとは」が、信濃町キャンパスにて開催されました。講演では、アカデミアと企業のサイエンスナレッジ・データ基盤を活用して展開される異分野融合研究や、そこで創出される様々なセンシング技術やAI解析によるアルゴリズムなどが紹介されました。医療・介護・ヘルスケアをシームレスに結び、治療後の悩みを抱える個人・家族が必要な時に適切なところにつながり、安心と生きがいを持って自分らしく健康で豊かに過ごせるヘルスコモンズ共生社会の実現を目指したいという内容で、参加者は熱心に聴講し、活発な質疑応答が行われました。

* 小泉信三記念講座は、故小泉信三博士の人と学問を記念して設けられた小泉基金により、全学的な総合講座として1968年より年に数回実施されています。この講座は広く学外の方にも聴講料無料で公開されており、原則として特に予約なく自由に参加いただけます。



講演する中村教授

市民公開講座「がんの基礎から現在のがん治療、そして最新がん治療法の紹介」開催

2025年1月19日～1月26日、薬学部は、第3回がんプロフェッショナル研修会市民公開講座「がんの基礎から現在のがん治療、そして最新がん治療法の紹介」をオンデマンド配信にて開催しました。がんは日本人の2人に1人が罹患する国民病であり、2000年代から分子レベルでの研究が進み、様々な新薬が開発されています。特に、免疫チェックポイント阻害薬に代表されるがん免疫治療法は、手術・化学療法・放射線治療に続く第4のがん治療として大きな期待を集めています。講演では、免疫チェックポイント阻害薬を中心とした次世代がん治療法の現状と今後の展望について、最新の研究報告を交えて解説しました。

ワークショップ「最先端の医療機器でリアルな医療体験を！」開催

2024年8月17日、麻布台ヒルズの予防医療センターで、中学生を対象としたワークショップ「最先端の医療機器でリアルな医療体験を！」の第1回が開催されました。このワークショップは、麻布台ヒルズのテナント企業や店舗などが子どもたちに学びの場を提供するサマープログラム「ヒルズ・ワークショップ フォー・キッズ2024」の一環として、慶應義塾が本物の医療機器に触れる体験学習の機会を提供したものです。参加した中学生たちは3グループに分かれ、予防医療センターの医師・看護師・技師と、医学部・看護医療学部・薬学部生の救命救急措置法普及活動サークル「KAPPA(Keio ACLS Popularizing and Promoting Association)」所属学生の指導で、内視鏡で胃の中を調べるトレーニング、腹部超音波検査装置による内臓の様子を観察、シミュレーターとAEDを使った一次救命処置の3つを、ローテーションしながら学んでいきました。

予防医療センターでは、さらにプログラムを改良しながらこの取り組みを続け、子どもたちに最新の医療に触れる機会を提供していきます。



AEDを使った一次救命処置の実践

公開講座「住友生命が取り組む『ウェルビーイング(=よりよく生きる)』とは」開催

2024年5月24日、システムデザインマネジメント研究科(SDM)は、公開講座「住友生命が取り組む『ウェルビーイング(=よりよく生きる)』とは」を開催しました。第1回「ウェルビーイングアワード」(https://www.asahi.com/ads/wellbeing_awards/)でモノ・サービス部門グランプリを受賞した住友生命保険相互会社 高田幸徳取締役代表執行役社長と同アワードで審査委員長を務めた前野隆司SDM教授(ウェルビーイング学会代表理事)の対談、SDM聴講生との議論などのプログラムを軸に、住友生命が健康増進型保険「住友生命「Vitality」」を核として経営の真ん中に「ウェルビーイング」を据える意味と、「ウェルビーイング(=よりよく生きる)」に関する理解促進を図りました。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

慶應生と日吉の街の交流プロジェクト

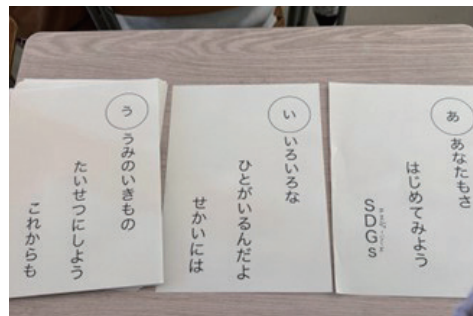
SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」の実現のため、慶應義塾が地域社会で果たすべき役割を学生と地域住民の交流を通じて考えながら、「近くて遠い慶應義塾大学」から「街の誇りの慶應義塾大学」へと変革していくことを目指すプロジェクトです。日吉に住む小学生に焦点を当て、学生がキャンパス近隣地域の小学校や放課後キッズクラブを訪問し、本をテーマにしたワークショップを行うことで、慶應義塾も本も、より身近に感じてもらうことを目指す「大学生ブックキャラバン〜本とゲームで楽しもう!〜」と塾生会議×師岡小プロジェクト「探求活動―師岡小版SDGsを実践しよう!―」を実施しました。

2024年8月に横浜市立日吉台小学校放課後キッズクラブ(小学校1〜4年生対象)、2025年1月に川崎市立木月小学校(小学校3年生対象)で「大学生ブックキャラバン」を実施し、SDGsに関する本の読み聞かせを通して日常生活で実践できるSDGsについて考え、SDGs宣言を行いました。また、2024年5月〜12月、「師岡小学校版SDGsを実践しよう!」をテーマに、慶應義塾でのSDGsの取り組みを紹介しながら横浜市立師岡小学校でできることを考え、イルミネーション・カルタ・ポスターの3班に分かれて作品の作成・展示を行いました。

今後も、キャンパス周辺の小学校に活動をさらに展開していく予定です。



SDGs宣言作成の様子



SDGsカルタ

伊藤塾長がU7+アライアンス学長会議に出席、G7首脳会議(サミット)に向けて共同声明を発表

2024年4月11日〜12日、「U7+アライアンス(以下、U7+)」学長会議がイタリア・ミラノのボッコーニ大学で開催され、伊藤塾長は11日のセッション「高等教育へのグローバル・アクセス:Global Access to Higher Education」において、多様な価値観に触れ、仲間と切磋琢磨しながら学び続けることの重要性についてスピーチしました。U7+は、大学との協調の下、高等教育へのアクセスを阻む障壁をなくすことをG7各国政府に求める共同声明をまとめ、2024年のG7サミット議長国であるイタリアのアンナ・マリア・ベルニーニ大学・研究大臣に手交しました。



スピーチを行う伊藤塾長

伊藤塾長らがAPRU学長会議、APWiLサミットに参加

2024年6月24日～26日、ニュージーランド・オークランドで開催されたAPRU(The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会)第28回年次学長会議に、伊藤塾長らが参加し、“Oceans: The World’s Challenges Divide Us, the Ocean Currents Connect Us”をテーマに、気候変動や海洋環境・生物多様性保全などについて議論を重ねました。年次学長会議に先がけて6月23日に開催されたAPWiL(Asia Pacific Women in Leadership)In-Person Summitのパネルディスカッション“The Role of University Leadership in Advancing Gender Equity”に登壇した伊藤塾長は、ジェンダー平等に関する取り組みを紹介し、組織のリーダーが果たすべき役割について議論を交わしました。キーノートセッション“A Conversation on Driving Change Towards Gender Equality”に登壇した奥田常任理事は、社会とともに変化するダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)の今後のあり方について意見を交換しました。



登壇する奥田常任理事
写真提供:APRU

徳島県海部郡海陽町と地方創生に向けた包括協定を締結

2025年2月11日、メディアデザイン研究科(KMD)は、徳島県海陽町とメディア・教育ならびにコミュニケーションデザインの分野で協力し、過疎地域の持続可能な未来の創造を目的とする包括協定を締結しました。本協定は、過疎地域が抱える少子高齢化やコミュニティの希薄化といった課題に対して、海陽町とKMD双方の資源や技術を活用し、地域の活性化および地域課題の解決を図り、海陽町の地方創生を目指すものです。今回の協定では、メディア・教育ならびにコミュニケーションデザインの分野において、「小規模学校の強みを生かした新しい教育の実現」と「過疎地域における住民間交流の促進」に取り組みます。本協定による地域内外とのさらなる連携により、新たなイノベーションの創出が期待されています。



締結式の様子

日本赤十字社とボランティア協定締結

2025年3月21日、慶應義塾と日本赤十字社は、人道的課題に取り組む学生ボランティアの育成および活動等を行うことを目的とした連携協定を締結しました。2025年度には、ボランティア活動を希望する学生の支援を行うための環境・体制整備や日本赤十字社との連携を行っていく予定です。

活動支援の例:

- ボランティアに関する相談
- 慶應義塾が関わるボランティア活動の広報
- 日本赤十字社をはじめとした外部機関が実施するボランティア活動に関する情報提供
- 研修会・セミナーの実施

など